

教主の人格と其教典

013948-000-8

特65-311

教主の人格と其教典

一 真子/著

M45

ABB-0189



教主の人格と其教典

4

# 教主の人格と其の教典

今日は教主の人格と其の教典と云ふ題を掲げて世界の各教の中を  
も人格の高い人は何人であつたか、又吾等の模範とすべき人  
を居られた人は何人であるかと云ふことを比較して御断をして  
と思ふのである、併し現今世界に澤山ある教派の教祖とか何と  
て居る人物を一々比較すると云ふのは面倒のみならず中には  
より見れば三文の価値のないものもあるから世界の大宗教として  
佛教の教主釋迦と耶蘇教の教主キリストと、吾等の尊信する所の天照

45. 30  
内

皇大神との人格を比較して御断して見やうと思ふのである。トコロが  
神道家の一部不寧る大部分の論者は我が天照皇大神を一の教主とし、  
釋迦や耶蘇に比較してその人格を論ずるなどは實に不都合である不  
敬であると云ふものが澤山に顯はれるであらふと思ふのである。ナレ  
ドモこれ等は井中の蛙未だ大海を知らざる愚論者として論ずるに足り  
ないのである。今の神道家にコンナ頭の存在して居る間はマダ神道は  
社會を料理して行くことの出来ないものであると思ふがよい  
又神道は宗教でない。神道は神道である神道は宗教以上であるなど  
と獨りでエラダガつて居る神道家も澤山あるがこれ等は愚論中の愚論  
で未だ宗教と云ふ意義を解しない輩である。尤もあはれむべきもので

あるからコンナ者の云ふことを一々取り上げて居るわけにもいかな  
からこれ等の論者は虚心平氣で我等の主論を見聞するがよい  
扱てこの人格と云ふことは随分社會で八釜しく云つて居る問題であ  
るが、その人格と云ふものを論ずる上に於て、ごふ云ふ人が人格の尊  
ひ人であると云ふことになる。鳥渡標準が立つて居らぬ様に思ふので  
ある。故に吾等は人格の尊卑を論ずるに當り人格の標準とすべきもの  
を定めて置いてその標準にあてはまる人を以て尤も人格の尊ひ人とし  
其の標準にあてはまらぬ人を人格の卑ひ人として論じて見やうと思ふ  
のである。就ては如何なるものを人格の標準とするかと云ふと先づ秩  
序、順序と云ふことから標準を立て、見たいと思ふのである。總て世

の中は何教何派を論ぜず社會一切の事にこの秩序と云ふものが立つて居らなければ、ダメである順序が立つて居らなければダメである。何事の成立するのも秩序、順序を経て來たのである。一本の草木でも一ツの談話でも如何に少しのものでもそれ相當に秩序、順序を踏んで來て居るのである、人と一場の嘶をしても順序の立つて居らぬ嘶は少しも解らないのである、如此一の草木一秒の小と雖も秩序を離れては成立せぬものとせば一の教法として説く上に秩序なく順序が立つて居なかつたらソレハ教法として立つことは出來ないのである宗教と云ふ價値のないものであると云ふことは今更吾等の喋々を要しないのであるソコデ佛教と云ふ釋迦の教も定めて秩序正しく説いてあるであらふ

又基督教と云ふ教へにも定めて秩序整然として説いてをるであらふ、併し佛教であつても又耶蘇教であつても其の説ひてある教を一般に知りしめるにはどふしたら知らせることが出來るのであらふナルホド本を讀んだり説教を聴ひたりした人には其の教派の秩序的教へが知られるでもあらふが未だ一の佛書も又バイブルも讀んだこともなければ又一回の説教も聴ひたことのないものにまで秩序と云ふことを知らしめることはどふしたら出來るであらふモシ佛教や耶蘇教では本を讀むか説教を聴かないものには秩序と云ふことを教へることが出來ないとするれば彼の教へは自分の教徒信徒以外のものには秩序と云ふことを知らせることの出來ない教へであると云はねばならぬのである。然れば佛

教や耶蘇教の外に本も讀まず一回の説教も聽かず不言の中に整然たる秩序を認めしめることの出来る教へがあつたらどふであらふこれこそ世界最上の教と云ふことが出来るのであらふ、然ればその不言にして秩序を認めしむる教とは如何なる教へであるかと云ふとこれこそ佛教やヤソ教の如き人造の教へにあらざして天啓の教とも稱すべき神道純愛教である、吾が純愛教は大陽を標準として秩序を説くのである、吾等はこの宇宙に生存して居る以上は一秒時と雖ども秩序を離れてはならぬのである、順序をあやまつてはならぬのである、その秩序を俱體的に認めることの出来るのは大陽である故に吾が純愛教では各自が世界に生存して行くにはこの大陽の三百六十五日秩序整然として行く如

く吾等も秩序を行へと云ふのであるのみならずこの大陽の秩序整然として亂れざる所は各自の自認している所である、これ神道純愛教の各教各派の表に脱出して居る所である

又人格に缺くべからざるものは純愛の心である、もし其の人にして純愛の心なきときは如何に學識があり才智があつてもダメである尊敬する價值がないのである、故に純愛の心は人格の上に缺くべからざるものである、釋迦と云ふ人の人格を世人の尊敬するのは何も八萬四千の法門だとか何とか云ふへコ六ツケ敷理屈より大慈悲と云ふ事を鼓吹したからである一切衆生を救済すると云つて叫んだからである、然るに彼れ釋迦も一切の衆生を救済することが出来なかつたと見へて縁な

凡  
き衆生は度し難しと云つて終に匙を投げたのであつた。萬物を其の受けるものゝ力に應じて救済することが出来なかつたものと見へるのである。又キリストと云ふ人もエライ人であつた。我れは神の子である我れは世界の救世主である。救はれんと欲するものは我が下に來れ我れ汝等に代りて罪を償はんと叫んで終に十字架にかゝりて斃れたのであつた實に萬人の爲めに身を犠牲に供したと云ふのであつて博愛と云ふことを標旗として立つた人である。然るに目的の如く萬人を救ふことが出来なかつたと見へて矢張り釋迦の如く遁辭を設けて我が信する所の神を信じ愛するものは救はれるけれど神を信じ愛しないものは罪せられんと云つて我が敵を愛せよとか博愛とかと云ふ標旗もダメにな

つて了つたのである。故に釋迦の慈悲の手よりも救はれず又キリストの博愛の手よりも救はれぬものが澤山にある故に釋迦の人格もキリストの人格も世界一切の物を其の受けるものゝ力に應じ救済する純愛の徳を供へて居らなかつたものと見へるのである。然れば釋迦や耶蘇の手に救はれざるものは素より世界一切の物に生々化育の愛を興へる純愛の化身と云はれる人格の人があり又その教があつたなればそれこそ世界最上の人、世界最上の教へと云はなければならぬのである然ればその世界最上の人とは如何人であつて又世界最上の教とは如何なる教であるかと云ふことになるのである。その最上の人とは釋迦でもなければ基督でもなくこれこそ我が尊信する天照皇大神であつて又その教

へこそ天照皇大神の教である。この教へこそ一冊の本も讀まず一場の  
 説教をも聽かず生れながらにして自認することの出来る太陽中心の不  
 言の教である。太陽が萬物に對し熱と光をその受けるものゝ力に應じ  
 て惠み與へて生々化育ならしむる如く我等も萬物に對し愛憎すべから  
 ずと教へるのである。太陽が萬物に熱と光を與へて生々化育ならしむ  
 るにこれはダイヤモンドであるから澤山に熱と光を與へるこれは糞尿  
 であるから少しの熱と光を與へると云ふ様な愛憎のことの少しもなく  
 平等に熱と光を與へて生々化育ならしむる如く我等も萬物に對して少  
 しも愛憎の念をもつてはならぬのである。故に人格の標準とすべきま  
 のはこの太陽にして我等はこの太陽の如く秩序整然として一糸亂れず

この太陽の如く萬物に對して少しの愛憎なくこの秩序あり愛憎なき純  
 愛の徳を供へたる人こそ眞に我等の尊信すべき人格の人であると云ふ  
 のである

然れば太陽の如く秩序整然として一糸亂れず萬物に對して少しの愛  
 憎なく秩序あり愛憎なき純愛の徳を供へたる人とは果して如何なる人  
 でありませうか、ナルホド釋迦と云ふ人間も生れるとスグ天の上にも  
 天の下にもたゞ我れ獨り尊ひのであると叫んだの又は十二年の間苦業  
 端座の結果一切の衆生を救済すると云つて八方を乞食して廻り八萬四  
 千の法門だとか何とか云つて人を煙に巻いた所は如何にも強氣な様で  
 ありました、ナンドモソンナ強氣な釋迦でも太陽の光りを離れては目



が見えなかつたのである又飯を食はなければ矢張り腹が空つた人間である、欲を去るの死をおそれるなどと強らそうな事を云つて居ながら六年の苦業に肉落ち骨出て形が骸骨のやうになつたのに怖氣がついてヤリキレズ我れ六年の苦業に及ぶも解脱を得ず是れ真正の方法にあらざる曾て閻浮樹の下にて思つた離欲寂靜こそ真正であらう我れ當に食を受けて我が體力を復し然る後ち成道すべしなど云つて欲を離れよと云ひながら忽ち食の欲を求め尼連禪河で體の汚垢を洗つた所が動くことが出来なくなつて難陀婆羅と云ふ牧場の小女の爲めに牛乳を恵まれて蘇活したのであるコレほど苦業して善男善女の爲めに生老病死の四苦を解脱せしめてやらうと煩悶してくれたお釋迦様に對してその時

の人々は釋迦を指してアソ太陽の如く秩序あり純愛の徳を備へた人である  
と誰れも云はなんだのである  
尊崇しなかつたのである、又蘇耶と云ふ人もそふである我れは神の子である世界の救世主であると稱しヤ  
イロの女を甦らせしを初め癩病者を醫し五千人に一の食を頒ち與へ海上を歩むなご種々の奇跡を現はして終に世の人の爲めに十字架にかゝりて斃れ身を萬人の犠牲に供したりと云つて耶蘇は奇跡に生れて奇跡に終つて居る人である、如此偉大なる人物であつたにもかゝらず時の人々はヤソを指してアソ太陽の如く秩序あり純愛の徳を備へた人であると誰れも云なかつたのである  
尊崇しなかつたのである

然らば何故に釋迦の如き耶蘇の如き偉大の人物を太陽の如き秩序あ

り純愛の徳を備へた人格の標準とすべき人であると云はなかつたのであろう、ナルホド釋迦もヤソも一方面から見ると實に偉大な人物である崇尊すべき人物であるナレドも又一方より見ると實に缺點の多ひ卑むべき人物であつて決して我等の模範とすべき人物ではないのである太陽の如く秩序的人物でないのであつた、ソレナレば釋迦は如何なる缺點があつたかと云ふと釋迦は純個人主義の人であつたのである釋迦は衆生の爲めとか世界の爲めとかに説法したとか何とか坊主等がホヤイテ居るけれどそれは眞赤な虚言で釋迦は純個人主義の人間であつた自分の爲めには一切の物を犠牲にする人間であつた生老病死の四苦を解脱しやうとしたのは人の爲めではないのである自分が煩悶して自分

の生老病死を解脱しやうとしたのである何も將來世界の人間を救ふ爲めとして苦業したのではないのであつた、ソレから釋迦は人倫を亂し社界國家を無視し植産興業をいやしみ祖先や父母を辱しめたのである故に時の人は釋迦を見ること太陽の如く秩序あり純愛の徳を供へた人として崇尊しなかつたのである。

又ヤソもそふである彼れは猶太の大工の子に生れ世界の救世主を以て任じ一方面から見ると如何にも立派な人物であつたが又一方より見ると實に恐るべき社界、國家、家庭人倫を破壊する人物であつた彼れヤソが山上の宣言こそ我れ等の模範とすべき人物でない證據である、彼れの宣言は實に左の如き宣言であつた

○地に泰平を出さんが爲めに我れ來れりと思ふ勿れ。泰平を出さんには非ず刃を出さん爲めに來れり、夫れ我が來るは人を父に背かせ娘を其母に背かせ媳を其の姑に背かせんが爲めなり。人の敵は其家の者なるべし、我れよりも其父母を愛つくしむ者は我れに協はざるものなり。我れよりも子女を愛つくしむ者は我れに協はざるものなり。其十字架を探りて我れに従はざる者も我れに協はざるものなり。とこれ果して家庭や社會國家の爲めに平和の教であらうか實に亂暴なる教である一切の物を破壊する教である、故に時の人々は耶蘇を見ること大陽の如く秩序あり純愛の徳を供た人として崇尊しなかつたのである。

然らば如何なる人が人格の標準とすべき人物であるかと云ふとこれ我が崇尊する所の天照皇大神これ眞に大陽の如き人格を供へられた人物である。今日俗間に天照皇大神は彼の大陽であるなどと云ふものがあるがこれは大なる間違であつて天照皇大神は彼の大陽の如き徳を供へられた人であつたと云ふことを間違へたのである。ソレナレバ天照皇大神はタゞ大陽の如き人格の人であつたと云ふのみでなく釋迦や基督に對して如何なる長所があるかと云ふことを比較べて見なければならぬのである。

全體今日まで世間で各教の教祖とか或は聖人君子とか云ふ様な人間は十人一轍富と云ふことを否認して居るのである。又女性と云ふもの

を人間以外のもの、様に云つて居るのである殊に釋迦や耶蘇の如きは尤もこの世界と富と云ふことを賤むたものであつて釋迦の如きは乞食と云ふ者を養成するのみにて殖産興業と云ふことや働くと云ふことは一切禁物で只未來の安樂を説きこの假りの世、迷の世、穢れた世、夢の世を解脱せよと云ふのが目的であつた。又耶蘇もそふである此の世の殖産興業と云ふものも富と云ふものも一切を否認し貧しき者は幸なるかな富者の天國に昇らんとするのは恰も針の目を駱駝が通らんとするよりも困難であると説いてあるのである。

然るにこれ等佛、耶の如き消極的教に反し富は國家の大本である働きは人たるもの、本務である、人は働かざるべからず、國家は富を

さぐるべからずとは天照皇大神の積極的教である、故に天照皇大神は機工場を造られ御身自ら布を機りて労働の神聖なることを示され口は繭を含み糸を引きて蠶の糸を取ることを教へられ、大氣津比賣の神に命じて五穀其他農業殖産の方面に當らしめ給ひ石凝姥賣の神に命じて工業の事を主らしめ天之鈿女の神には舞踏音楽より和合の道を、天之兒屋根の神には天文地理其他文學等に關する方面を主らしめて農の時を知らしめ給ふ等天ヶ原政治は殖産興業一として至らざる所なく盡さざる所なく行なはれて居たのである、世界廣しと雖も澤山の聖人君子願はれしといへども恐らくは天照皇大神の高ヶ原政治は完備した政治はなかつたのである、故に時の人は天照皇大神の徳を指して太陽

の如く秩序あり純愛の徳を供へた人であると賞賛したのである崇拝したのである。故に天照皇大神は世界人類の標本とすべき人格を供へられた人である。釋迦や耶穌に超絶した人であつたのである。然らばその教として佛、耶に超絶したる教とは如何なる教であるか。

## 教典の要旨

佛教の教典として居る書物は澤山にあるこれを巻數にすると四萬卷あるの五萬卷あるのと強らひ事を云つて居る、又其中に教訓とするものも澤山にあつてトテモ覺へきれないほどである、がつまる所八萬四千の法門も四萬餘卷の御經も忍辱の一つである辱を忍べ腹を立てる

など云ふ教である、この辱を忍べ腹を立てるなど云ふ教を俗に

干唾の誠と云ひ傳へてある、この干唾の誠と云ふことはどう云ふ事であるかと云ふと人が己の顔へ唾を吐きかけても決して怒つてはいかぬのみならずその唾を拭いてはいけぬ顔に唾をかけられたまゝ其の唾を干かためて辛棒しなければならぬ、辱を忍ばなければならぬと云ふ教である。

又

耶穌教の方でもそうである六十餘卷のバイブルであるの又十誠の教訓であるのと種々の經卷や教訓も澤山にあるやうではあるがつまる所は、

人汝の右の頬を打つ時は左の頬を打たしめよ。

我が敵を愛せよ。と云ふのが耶蘇教の根本的教であるヤソ教徒の尤も得意とし誇りとして居る所である。

ナルホド佛教の干唾の誠と云ひ、耶蘇教の人汝の右の頬を打つ時は左の頬を打たしめよと云ふのは人に忍耐の道を教へると云ふことに就ては必ず不都合であると云ふ譯でもないが教訓としてはあまり面白くない教である。完全した教訓としては受け取れぬのであるナゼかと云ふと全體人が猥りに他人の顔に唾きを吐きかけたり又他人の頬を撲くものがあるであらふか、互に面白可笑しく談話をして居るものが出し抜けに人の顔に唾きを吐きかけたり又頬などを撲ぐるものでない。

この撲ぐるとか又は唾きを吐きかける林云ふ時は必ず争ひの結果である争論の爲である決して争論もせず何もせずして人を撲ぐつたり唾きを吐きかける事はないのである。として見ると佛教や耶蘇教の教は敵をこしらへておいて其の敵の暴悪なる所致を甘んじて忍んで居れと云ふことになるのであるナルホド敵をつくつて置いて其の敵と争はずに居れと云ふのは敵をこしらへて置いて其の敵と争ふよりは少しよいかも知れないが完全なる教とする事は出来ないのである。ソレナレ完全なる教と云ふのはドンナ教であるかと云ふと完全なる教と云ふものは敵を造つておいて其の敵の暴悪なる所致を耐へ忍んでみたり又其の敵を敵とせず反てこれを愛して見るなど云ふこととでなく始めから敵

をつくらないのである。始めから敵なからしむる教へこそ眞に完全した教である。故に敵をつくつて其の敵の暴悪なる所致を耐へ忍んだり反てその敵を愛して見るやうな不合理なる佛教や耶蘇教の教へより始めから敵をつくらず始めから敵なからしむる教が若し佛教や耶蘇教の外にあつたとしたらソレユソ完全な教であつて苟も人類たるものゝ隨喜して感情や習慣を捨て、其教を信仰し其の教の下に働かねばならぬのである。而してその完全なる教へを傳へられた人は今日までにタツタ一人ある其の教主は即ち天照皇大神である。

天照皇大神は『のり直せ』と云ふことを我等に教へられてあるのである。のり直せと云ふことは總ての事を、善に視よ、善に聞けよ、善

に用ゐよと云ふことである。人の一切の事を善に『のり直し』己れの一切の事を善に用ゐたれば敵は決して出來ないのである。この偉大なる精神を放ては六合にひろがるのである。萬事萬物此『のり直せ』の精神を以て働けは志として達せざるなく、事として遂げざる事はないのである。數百千萬卷の本を讀むのも皆この『のり直せ』の御言葉を實行するの外はないのである。これを實行せば決して敵は出來ないのである。これ佛教や耶蘇教の如く敵を造りてその敵の暴悪を忍ぶにあらずして始めから敵なからしむる實に最上の教であるこれ吾等の日夜服膺して寸時も忘るべからざる教である。我等幸にこの偉大なる人格の天照皇大神を教主としてこの無量の教訓に接すのは實に感謝に耐

へないのである。大和民族たる諸氏の起つてこの御教へを宇内に宣揚せられんことを望むのであります。

二六

明治四十五年二月二十日印刷  
明治四十五年二月三十五日發行

東京市小石川區小日向臺町三丁目四十三番地

發行兼編輯人 宮井鐘次郎

東京市小石川區小日向臺町三丁目四十三番地

印刷人 佐伯外美雄

發行所 神風會出版部





